

教科	国語	科目	国語表現	単位	2単位	年次	3年次
使用教科書	『国語表現 改訂版』大修館書店						
副教材							

1. 担当者からのメッセージ (学習方法等)

話す・聞く・書く・読むというのはすなわちコミュニケーションをとるということです。その行為には必ず発信者と受信者があり、いずれもそのどちらかに位置づけられる行為です。当たり前のことであるものの、このことは授業の中で忘れられがちです。たとえば、評論を読むというのは、筆者が私たちに伝えたいメッセージを受け取り、そのことについて受信者として考えるということです。「ある人が自分に何かを伝えようとしている、言っていることをきちんと理解したい」と、そのように意識して読むことで誤読や曲解は生じにくくなります。書くときは逆に、「ある人にこのことを伝えたい、きちんと理解してほしい」と、意識して文章を作るとよいでしょう。本科目での学びを通して、コミュニケーションの力を向上させましょう。

2. 学習の到達目標

多種多様な文章を読むことによって、言語文化に対する理解を深め、かつ生涯にわたって読書に親しむ態度を育む。また、目的や場、意図や相手に応じた、話す・聞く・書く力を伸ばす。そして、これらにかかわる活動を通じて、確かな思考力・判断力・表現力を身につける。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 話す・聞く能力	c: 書く能力	d: 読む能力	e: 知識・理解
観 点 の 主 旨	ことばを用いて伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する理解を深めようとする。	目的や場に応じて効果的に話したり、的確に聞き取ったりして、自分の考えを形作ったり、深めたりする。	意図や相手に応じて適切な表現を使ったり、構成を工夫したりして、自分の考えをあらわす。	テキストの意味を正確に読み取ったり、批判的に読み解いたりして、自分の考えを形作ったり、深めたりする。	国語の特質に関する理解や、伝統的な言語文化に関する知識を、幅広く身につける。
評 価 方 法	・取り組みの姿勢 ・課題や提出物の状況	・取り組みの姿勢 ・課題や提出物の状況	・課題や提出物の状況 ・定期考査	・課題や提出物の状況 ・定期考査	・課題や提出物の状況 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまともりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

月	単元	学習内容	主な評価の観点					評価方法
			a	b	c	d	e	
4 ・ 5	・評論における対比 ・語れる自己の発見	・対比について理解を深める ・自己探究から自己の言語化	◎	◎	○	○		小テスト 課題 発表・スピーチ 定期考査 作品 ワークシート
6 ・ 7	・評論における類似 ・語れる自己の形成	・類似について理解を深める ・語れる自己としての表出 ・相互評価による精度上げ	◎	◎	○	○	◎	
9 ・ 1 0	・評論における例示 ・言葉で抽象に挑む	・例示について理解を深める ・抽象の言語化	◎	◎	○	○		
1 ・ 1 ・ 1 2	・小説における心情描写 ・マイフィルム	・心情描写について理解を深める ・インタビューから立ち上がる自己	◎	◎	◎	○	○	
1 ・ 2 ・ 3	小説における象徴表現	小説における象徴表現について理解を深める。	◎	◎	◎	○	○	

※表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 話す・聞く能力 c: 書く能力 d: 読む能力 e: 知識・理解

※原則として一つの単元 題材 で全ての観点について評価することとなるが、学習内容 小単元 の各項目において重点的に評価を行う観点 もしくは重み付けを行う観点 について○を付けている。